

Museum News no.11/2025.2

百聞は一見に如かず^し

横川 公子（附属総合ミュージアム館長）

なじみのあるこの詞は、『漢書』に由来し、すでに二千年の歴史を有する。ずいぶん以前のことになるが、インターネットによる豊富な視覚情報が瞬時のうちに行き渡るのは、この成語の正しさを証明するという文章を読んだことがある。・・・その時は「ん？」と不可思議な感じがした。確かに現代は、インターネットで瞬時のうちに視覚情報を確認することができ、現物を見たいとする欲求は、古来最も満たされているかもしれない。情報を取得する上での効率と利便性の良さは、極めて優れている。しかし、元々の「繰り返し他人の話しを聞くより、実際に自分の目でたしかめてみたほうがよくわかる」という意味と、ネットの視覚情報による確認の間には、大きな違いがあるように思う。

実物に接して得られる形や色、質感や量感、肌理（きめ）、匂い、裏側や表面下の蠢きのようなものまで感じるためには、高度な情報化が必要である。しかし客観的で数値的に裏付けされる科学的・統計的情報が、現実には近づき得るのは時間の問題かもしれない。

大学ミュージアムの展示に、こうした先端的なテクノロジーを取り込んでいくことも視野に入れる必要があるだろう。

2024年度常設展示冬季企画「雪の文様^{ゆきわ}-雪輪^{せっか}と雪華」展について

平 法子（附属総合ミュージアム学芸員）

附属総合ミュージアムでは、IR館1階ロビーの常設展示コーナーにて、季節の主題に沿う資料を選び、企画展示を行っています。所蔵する国の登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」（全9,092点）の中から2024年度冬季企画では、室町時代以来の伝統図案である「雪輪文」と、江戸時代後期に登場した「雪華文」を中心に、雪の意匠を取り入れた帯、モスリン裂、長襦袢を紹介しています。

雪輪文は、植物に冠雪した様子を表した「雪持ち文」の雪を独立させて意匠化したとも、降雪した際の大形の雪片を象った「ぼたん雪」を表したものとも言われています。中国では宋代以前から、雪は6つの花卉（六花）からなるとの考えがあり、日本で雪を文様化した際、その影響を受けて6弁を凹凸で示した丸い花の形になりました。

雪華文とは、実際に顕微鏡で観察した雪の結晶（雪華）を文様にしたものです。下総国古河藩主で「雪の殿様」とも言われた土井利位（1789-1848）が、自身の研究成果をまとめた『雪華図説』・『続雪華図説』を刊行して以後、様々な美術工芸品の中に取り入れられ、人気を博しました。

今回の展示資料には、さり気ない部分に雪輪や雪華の文様が施されていたり、雪輪の中に美しい有職文様や、『忠臣蔵』の討ち入りの関連場面が表されていたりします。冠雪、積雪や降雪を表した雪景色の図ではなく、装飾として使用されている多様な雪の文様を楽しんで下さい。

博物館実習生による館蔵資料展「ハイカラ女学生の冬籠り」

森 ゆかり（附属総合ミュージアム実習担当教員）

2024年12月17日から20日、IR館5階ギャラリーにて、学芸員資格取得を目指す実習生による展覧会が開催されました。受講生は、着物が日常着だった頃の女学生とその家族の冬の生活を、道行コート等の衣服、暖房具や食器等の生活道具などのミュージアム所蔵資料で表現しました。女学生の部屋を想定した展示を中心に、冬の衣類、家族の身の回りの展示を設け、シニアの方々からは「懐かしい」、学生さんからは「可愛い」などのコメントをいただき、多くの学びを得ることができました。

会期4日間の入場者は88人で、過去最多となりました。



展覧会図録の表紙



会場風景

博物館実習 A の受講生がプラネタリウムの投映を行ないました

株本 訓久（附属総合ミュージアム実習担当教員）

昨年度から博物館実習 A では、展覧会グループとプラネタリウム投映グループに分かれて、展示の企画、運営に取り組んでいる。

今回、プラネタリウム投映グループの実習では、11名の受講生を2つの班に分け、投映企画書の作成、シナリオの執筆、配付資料の制作を行ない、その集大成として12月23日4限と1月20日4限の2日間、プラネタリウムの投映を行なった。

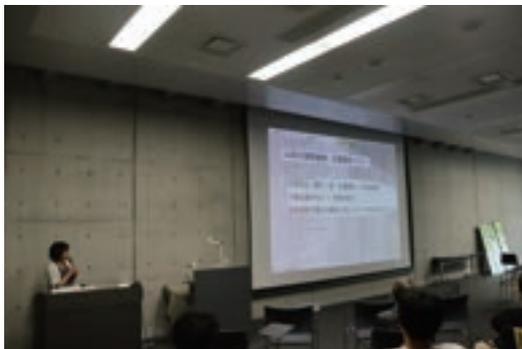
両日合わせて37名の方がご参加くださり、「学生ならではの」の視点で紹介する冬の星空を楽しんでいただくことができた。今回、ご参加いただいた方は学生が中心であったが、次年度以降、投映会の対象を学外に広げ、プラネタリウムを通して附属総合ミュージアムに親しんでいただく機会を提供していくことを検討している。

研究交流会を開催いたしました

2024（令和6）年10月26日（土）13時から学術研究交流会館（IR）1階101教室にて開催。
報告は次の19件です。 ※敬称略、○は当日の口頭発表者。

- | | |
|--|--|
| <p>研究員</p> <p>横川公子「最近の取組から」</p> <p>井上雅人「日本における近代デザインの通史」</p> <p>株本訓久 研究紹介</p> <p>○宇野朋子「収蔵庫の環境改善の検討（部分断熱による高温化の抑制）」</p> <p>○奥尚枝「薬用植物園における資料調査等の中間報告（2）」</p> <p>○鎌田誠史「近年の研究活動について」</p> <p>○森田雅子「博物館学と記憶の体系：身体とモノの秩序」</p> <p>○黒田智子「鳴尾の水資源と暮らしー西宮市鳴尾地区の水資源と暮らしー環境ガバナンスに対する市民意識の涵養ー」</p> <p>○松本佳久子「受刑者・非行少年の再犯防止を目指す音楽ナラティブ・アプローチ」</p> <p>○並木晴香「絵画化された「養蚕図」の展開と重ねられた意味について」</p> | <p>共同研究員</p> <p>今井良広、三宅正弘（研究員）「「阪神間」の海水浴場（1905-1964）についての一考察」</p> <p>小林政子「登録文化財の調査と記録に関する報告」</p> <p>伊永陽子「近代の教育標本資料「有職人形」の実態と時代背景」</p> <p>佐藤優香「ポストンチルドレンズミュージアム日本関係資料調査ー1900年代前半にアメリカの子どもたちに伝えようとした日本文化ー」</p> <p>○平法子「武庫川学院所蔵愛新覚羅溥傑・浩の書について」</p> <p>○泊里涼子「「一脚展」制作から展示会開催までの活動報告」</p> <p>樋口温子「シカゴ万博オフィシャルカタログの調査ー日本が出展した染織品の全容解明に向けて」</p> <p>廣田理紗「研究報告」</p> <p>○森ゆかり「附属総合ミュージアムにおける博物館学外実習の報告と今後についての考察」</p> |
|--|--|

発表風景



※武庫川ヒストリーは次の回にてお伝えいたします

武庫川女子大学附属総合ミュージアム Museum News no.11 2025年2月発行

663-8558

西宮市池開町6-46 学術研究交流館（IR館）4・5階 Mail haku@mukogawa-u.ac.jp

TEL (0798) 45-3509 / FAX (0798) 45-9994

HP <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum>

Museum
HP



MAP

